

第3回新しい学校づくり鳴門市地域協議会議事録

(1) 新しい学校の教育の基本方針について

(2) 新しい学校の設置学科等について

委員

「総合ビジネス系列」と「情報通信系列」の違いについて、もう少し詳しく説明してください。

事務局

現在の鳴門第一高校の「情報マネジメント系列」には、従来の商業教育に加え、情報化に対応するため情報関係の教育内容が含まれています。新しい学校において、鳴門工業高校の情報理数コースの教育を引き継ぐことを考慮すると、そのままの系列では情報関係の教育内容が重なることとなります。

そこで、「総合ビジネス系列」では、情報関係の学習も行いますが、従来の商業教育を中心にした科目を充実することとし、「情報通信系列」では鳴門工業高校の工業科のノウハウを活かし、今までよりも、より高度情報化に専門的に対応できるようにしていきたいと考えました。そのため、「情報通信系列」では、今までの鳴門第一高校にはなかった「初級システムアドミニストレータ」、「第2種電気工事士」などの資格取得についても鳴門工業高校から提案されています。

このことで、主に商業教育を中心とする「総合ビジネス系列」と今までよりも専門的な情報教育などを行う「情報通信系列」を区別し、生徒が分かりやすい系列としたいと考えています。

委員

総合選択制を導入することで、体育科の生徒も総合学科の科目から授業を選択できるようになっていますが、それがなければ「自然科学系列」や「人文科学系列」を選ばなかった生徒は、数学や英語の勉強をしないのでしょうか。

事務局

普通科、農業科、工業科など学科に関係なく、すべての高校生が卒業までに学ばなければならない必修科目が最低で31単位あり、その中で数学や英語を含めて高校生として身につけなければならない最低限の学習をします。

また、専門学科である体育科は、体育に関する科目を25単位以上修得しなければならないため、必修科目の31単位と合わせて56単位の履修が義務づけられています。卒業までには、90単位以上履修するため、さらに40単位程度は選択できます。その40単位の選択を考える中で、国公立大学に進学したいという体育科の生徒は、英数国を強化するため、英数国の科目を選択する必要があります。体育科にはそうした科目が開設できないので、総合学科の科目の中から英数国等を選択できるようにし、体育科の生徒の進路の幅を広げたいというのが今回の総合選択制の趣旨となっています。「自然科学系列」や「人文科学系列」を選ばなかった生徒も、進路実現のために必要な数学や英語を勉強できます。

委員

入試についてですが、体育科を設置した場合、名西高校芸術科のように前期選抜で 100%とるのでしょうか。

また、もし前期選抜で体育科を落ちた生徒が、この学校で部活動をしたいという希望から、総合学科に入学した場合、総合選択制を利用して体育科の科目をとり、授業を受けられますが、この選択科目は今後も増えることがあるのでしょうか。

事務局

現在、体育科の設置に関してご意見をお伺いしている段階であり、まだ入試制度については結論が出ておりません。地域協議会における、入試についてのご意見やご要望を伺って持ち帰り、今後検討したいと考えております。

また、総合学科に進学して、総合選択制を利用してスポーツの方へ進みたい生徒への対応ですが、総合学科と体育科の併設と決まりましたら、総合技術高校のように具体的な教育課程等について研究する開校準備委員会を設置してその中で検討し、総合学科の生徒が、体育の専門科目をある程度取れ、部活動も一緒に頑張れるようにしていくことが可能となるよう工夫したいと考えております。皆さんのご意見を反映させるため、ご要望がございましたら、お聞かせいただきたいと思います。

委員

総合選択制の導入により、画期的で理想的な高校ができると思います。総合学科の生徒数にも関係すると思いますが、選択科目の中で希望者数が極端に少ない場合、その科目は開講されるのでしょうか。

また、授業はすべて教員が指導するのか、それとも指導者として専門的な知識や技能を持った地域の人材を活用するのでしょうか。

もう一点、同じ科目を1年から3年までの生徒と一緒に授業を受けるのか、それともそれぞれの学年で受けることになるのでしょうか。

事務局

まず生徒数のことですが、今の鳴門市地域の生徒数の増減、また、鳴門市には松茂町、北島町、藍住町など板野郡からの進学者もいますので、それらを考慮した資料を揃えて、総合学科の規模、体育科の規模について、協議していただきたいと思います。

選択科目で希望生徒数が少ない場合ですが、ケースバイケースで対応することになると思います。例えば、理系の大学に進むので「数学Ⅲ」が絶対に必要である場合には、人数が少なくても開講せざるを得ないと思います。しかしながら、別の科目でも対応可能な場合には、選択生徒と相談しながら他の科目に変更することもあると思います。

また、教師がすべての科目を指導するのかということですが、すでに、大谷焼の陶芸家の方が社会人講師として高校で指導に当たってくださっております。地域の方に社会人講師として指導をお願いするケースもあると考えております。

次に、総合学科は原則単位制となっており、学年の区別なく選択できるようなシステムを取っておりますので、2年と3年においては、講座を希望した両学年の生徒で授業を組み立てていくという方法も研究していかなければならないと思っております。1つの学年

では希望者が少なくて開講できない場合でも、2年と3年の希望者をまとめれば選択者数も増え、講座を開講できる場合も考えられます。

委員

公立の高校では難しいのかもわかりませんが、学校に特色をもたせるために、大学や専門学校などと連携を取りながら高校の教育をより充実させていくことができないでしょうか。鳴門の小・中学校では、各校の教育に関して鳴門教育大学からいろいろな応援をいただいておりますが、総合学科・体育学科を創る中で、大学や専門学校と連携を図り、指導していくことは可能なのか、また、そのために必要な予算をつけて、全国的に優秀な指導者を招いて指導していただくことを特色のひとつとできないでしょうか。

事務局

参考資料に、「鳴門教育大学教育支援講師・アドバイザー等派遣事業」について挙げてあります。講座数も200余り準備していただいております、たいへん充実しています。他の大学にも同様の取組がありますから、大学や専門学校との連携を視野に入れて新しい学校づくりをしていかなければならないと思っております。

また、体育科において、有名な指導者を招き指導していただくことは大きな魅力だと思いますので、予算化についても検討していかなければならないと思っております。

委員

鳴門高校に、鳴門教育大学のラグビー部やハンドボール部の部員が指導に行っていると思っております。

委員

鳴門教育大学在学の本県の卒業生に指導に来ていただいております。また、鳴門教育大学の講座も活用させていただいております。鳴門教育大学の講師派遣事業はどこの学校でも十分活用できると思っております。また、学力向上検討委員会の方でも鳴門教育大学や鳴門市第一中学校には大変お世話になっています。

ただ、スポーツの有名な人を呼ぶ場合は、別の形で予算をとるようにしなければならないと思っております。

委員

大学としても地元と連携していくということが課題ですから、一層この機会に、鳴門市の小中学校だけではなく、高校とも連携を図っていきたいと考えています。

委員

体育科の出口保障についていろいろと配慮され、総合選択科目で対応するとの案が出されているのだと思います。

新しい学校では体育科が目玉になるような感じがしますが、県下的に他の地域にも設置する可能性はあるのでしょうか。また、体育科には、県下のスポーツ振興と競技力の向上を図るという大きなねらいがあると思っておりますが、体育科の生徒を鳴門地域の中から募集するのか、あるいは半分ぐらいは全県的に募集するのかをお教えいただきたいと思っております。

事務局

徳島県では、普通科には通学区域がありますが、理数科や外国語科、また、工業、農業、商業などの専門学科については、通学区域はなく全県下からの募集となっています。体育科についても専門学科であるため、全県下から募集するようになり、地域限定での生徒募集にはならないと思います。他の地域への体育科の新設は、現在のところは計画しておりません。

委員

体育科の定員を40名にするか80名にするかは今後協議するとのことですが、40名としてもすばらしい人材を集めるとなると、やはり県内一円から来てもらうことが大事だと思います。そのときに、その子どもたちの宿舎をどうするのかということで、鳴門市には民間アパートもたくさんあり、それを利用するのもひとつの方法ですが、まだまだ高校生ですので、寄宿舎があつて、そこに指導員がいて子どもたちを見守っていくことを考えに入れた方が良いのではないかと思います。

事務局

ご要望としてお伺いしたいと思います。

委員

「情報通信系列」では、いろいろ工業系の資格が取れるようなものを考えていただいているのですが、例えば、他にも資格を取得したいという生徒のニーズが出てきた場合、徳島にできる総合技術高校等の専門高校と連携し、そういった資格を取らせることは可能なのでしょうか。

事務局

工業系の資格について、現在のところそういう例はないと思います。資格を取るにしても総合学科であるため、工業技術基礎などの基礎的な科目を受けていないという制約もありますので、その件については、今後の課題とさせていただきます。

委員

総合学科のそれぞれの系列は、入学する段階で決めるのか、それとも1年次はある程度共通した学習をし、2年次以降にそれぞれが進む系列を選択して分かれていくのかを確認したいと思います。

それから、最近は大学への進学率が高くなっており、体育科に入学した生徒も、かなりの割合で大学進学するのではないかと思います。体育の技術があつて、推薦で大学に進学できる生徒はいいのですが、そうではなく体育の技術以外の方法で、体育系大学へ進学し理論的なことも含めて学びたい場合、普通科高校では、先生が朝夕補習をして勉強させており、そういった生徒との競争となります。進学を目的とした生徒には、十分なフォローができるようなコース・系列が必要になってくると思います。どうでしょうか。

事務局

総合学科は第3の学科として誕生しました。それまでは、普通科高校と職業高校に代表される専門学科の2つしかありませんでした。しかし、今の社会はいろいろなことが要求される時代であり、いろいろな情報も飛び交っており、将来について考えているけれども、中学校卒業段階でどちらに進んだらよいのか決めかねている生徒がたくさんいます。それに対応できる学科として総合学科が生まれてきました。

従って、総合学科の生徒は、1年からどの系列に所属をするということを決めて入学してきていません。1年の時は、高校生が学ばなければならない必履修科目を中心に勉強します。総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」という週2時間ある科目の授業で、世の中にはどういう職種があるのか、希望する職業に就くためにはどんな資格が必要であるのかなどの学習を積み重ねていきます。2年次以降は、その資格や進路を目指すためにはどの科目が必要であるかを考えて、系列という教科のかたまりを目安に選択科目を決めていくのが総合学科の特徴であり、自分の進路にあった科目を自由に選べるのが総合学科の魅力といえます。

また、系列はありますがひとつの系列からすべてを選ぶというわけではありません。例えば、商業の国際化に対応するために外国語も勉強したいという場合、商業と外国語の単位を重点的に学ぶため、「総合ビジネス系列」と「人文科学系列」の両方から科目を選択することになります。

工業や情報の勉強をして資格取得を目指しながら、理科や数学などもしっかり勉強して工業系大学へ進学したいという場合、「情報通信系列」と「自然科学系列」の両方から科目を選択して学んでいくことになります。

体育科の進路についてですが、体育科も含めて専門学科では、専門科目を25単位履修しなければなりません。ただ、高校生に履修が義務づけられている必履修科目の体育7単位を体育の専門科目で読み替えることができるため、体育の専門科目18単位の履修ですませることができます。普通科で1年から受験に向けて頑張っている生徒と比べたら不利な状況にはありますが、25単位の専門科目の履修が義務づけられている他の専門学科と比較すると、進学のための科目を選択する余裕があると考えています。

また、競技種目の成績を使った推薦入試ではなく一般入試で進学する生徒や体育系以外の大学などに進学したいという生徒にも対応できるシステムとして提案させていただいたのが、今回の総合選択科目です。普通科と全く対等に勝負できるとまでは言えませんが、自分の決めた進路に向けた科目選択ができるような工夫を考えております。

委員

鳴門市の子どもが高校に進学する場合、今後は2校から選択しなければならないこととなりますので、鳴門市の子どもが本当に行きたいと思う高校にしなければいけないと思います。

体育科に反対するわけではないのですが、体育科を設置した場合に、例えば、トレーニングルームは基礎体力をつける上で絶対必要だと思います。鳴門高校には素晴らしいトレーニングルームができておりますが、今回できる体育科は、鳴門総合運動公園の体育館の中のトレーニングルームで対応すると一番最初にお聞きしました。それでは一般の方が使用しているときには使えないなど、いろいろ問題があると思います。

また、体育科をつくるときには、栄養学とか専門的な分野の先生方の指導もすごく大切

になってくると思うのですが、私立ですと同じ先生を確保していただけるという安心感がありますが、公立の場合は先生方の異動もありますので、必要な先生方をずっと確保していただけるような配慮をしていただけるか不安になります。

本当に鳴門の子どもたちが行きたい高校にしてほしいと思いますが、今、鳴門高校も体育、スポーツに関してすごく力を入れておりますので、そうした施設や人材確保について、県の方はどのような対応や考え方をお持ちなのかを知りたいと思います。

事務局

鳴門高校では、100周年事業などを活用され素晴らしいトレーニング機器等が整備されておりますが、現在の鳴門工業にもウエイトリフティング部があり、それを授業に活用することによりウエイトトレーニングは可能だと思えます。また、野球部の方でもトレーニング機器は揃えているようです。

また、事務局の説明が十分でなかったかもしれませんが、学校に整備できないので鳴門県民体育館（アミノバリューホール）のトレーニング機器を利用するのではありません。必要なものは整備するという方向で予算要求していきたいと考えております。

前にご説明させていただいた趣旨は、鳴門県民体育館（アミノバリューホール）には本当に素晴らしいトレーニング機器があるので、それを新しい学校の生徒にも活用させたいということであり、体育の授業を2時間連続になるようにするなど時間割を工夫すれば、素晴らしい機器を使うことが可能だと考えております。

次に教員の確保についてですが、新しくできた学校に関しては、開校のときにできるだけ人事的にも配慮したいと考えています。ただ、全県的なバランスなどもありますので、私立のように、その後もずっとその教員が同じ学校で勤めるということは難しいと考えております。

委員

体育科については、今回は踏み込んだ資料をいただき、進路についても各委員さんがいろいろ質問され、また、その説明を聞き、今日はかなり分かってきたなというふうに感じております。子ども達にとっては指導者が大事だと思いますが、私立でないので、教諭の方をどのくらい置けるのか、また、学校外の地域の方にご協力をいただくにしても、プロアマの規約もあると思いますので心配をしておりますが、そのことは事務局もお考えいただき、詳しい資料も提示していただいております、かなり納得できた会だったと思います。

ただ、私が一番気になりますのは、再編の今後のスケジュールです。その点について教えていただきたいと思えます。

事務局

生徒を募集するときは、「あなた方が、最後の鳴門工業高校工業科の生徒となります」といえるように、最低3年前には公表することが望ましいと思っております。再編のスケジュールに関しては、今後、耐震化等の課題もあり、この場で何年と明確なお答えをすることはできません。

また、報告書をいただいた後、それを踏まえて、県教委において再編計画案について検討させていただくこととなりますが、設置する学科によっても準備にかかる期間が異なってくると考えています。

委員

だいたい何年予定というのは知りたいところです。明確に言うのはなかなか難しいという事は頭では納得できますが、気持ちの上では、明確に言えなくても何年予定みたいな目標を言っていただけたらと皆さんも考えていると思います。

委員

今回は、ある程度方針がわかってきました。現在、日本は国を挙げて観光立国に向け取り組んでおり、国及び地方においても観光振興の重要性が叫ばれる中、観光検定なども始まっています。こうした状況を踏まえ、地域の教育資源を活かした教育とは何かと考えたとき、鳴門には農産物も含め多くの観光資源がありますので、地域の観光について専門的な学習をし、地域振興を推進する人材を育成するのも良いと思います。文部科学省のしほりもあり、県立高校で可能かどうかわかりませんが、時代の先取りとして、観光科などもあってもいいのではないのでしょうか。

事務局

鳴門には、鳴門金時のような特産物、渦潮、大谷焼などがありますので、地域振興系列についても検討しましたが、開設できる科目数が少なく、系列としては設けておりません。しかしながら、観光や地域振興の観点も考慮し、学校設定科目として、「鳴門の特産物」「鳴門の歴史」「鳴門の地理」などの新しい学校独自の科目をつくり、誰もが選択できる科目とすることで対応させていただきたいと考えております。

委員

鳴門教育大学に「四国遍路と地域文化」という授業があつて、実際に学生が遍路道を歩いてその文化を学んでいます。鳴門は観光がひとつの売りですから、それを活かした授業などの工夫があればよいと思います。

委員

鳴門高校は単位制ですので、学校設定科目として「郷土工芸・芸能特講」、「ふるさと探訪特講」を設定しており、その中で阿波踊りにも取り組んでいます。十分設定可能であると思います。

委員

インターネット等で調べてみたのですが、特色のあるコースとして、松江市立女子高校では、出雲大社や松江城などがあり、国際文化観光科の中に観光コースを設けて、観光概論、ホテル実習、巫女の学習などを行っているようです。また、栃木県的那須高校もリゾート観光科を設置するなど観光に力を入れており、リゾート地でもあるので、観光とスポーツとをからめた学習をしています。

徳島県は、観光資源では他県に負けていないが、なかなかうまく活かしていないところがあります。先日、四国の中で宿泊客がいちばん少ない県であるとの記事も見ましたが、高校あたりから観光資源を活かせる勉強も必要かなという気がします。

委員

両委員から出されたことについて、実際のカリキュラム上でどう位置づけるかは難しいと思いますが、是非検討していただきたいと思います。

委員

事務局の先生方のご尽力は大変だったと思います。筋道が少しずつ見え始めましたので、これをさらに精査していい学科にしていくことが、私たち委員の仕事ではないだろうかと思えます。

私は鳴門第一高校、旧撫養高校の卒業生です。ある意味こんな悲しいさびしい歴史の学校はないのではないのでしょうか。旧制撫養高女、町立撫養商業、戦後、撫養高校になって、その後、商業教育が必要ということで鳴門商業高校となり、そして商業の衰退に伴って国際教養科を中心に鳴門第一高校となり、総合学科に改編された今の学校があります。

また、工業立国のなかで、鳴門市立工業高校は、市民の熱い思いで創立され、これまで市税をつぎこみ、また、地域でも学校を応援してきた歴史があります。3年前、鳴門市工の在り方を検討する会の委員長を1年間務めました。鳴門市工が消えていくのはさみしいことです。鳴門市工はなくなるのですから、県内外で活躍している卒業生の思いをどう引き継いでいくのかを忘れてはいけないと思います。

今度、徳島市に新しい総合技術高校ができ、長い歴史を持つ鳴門市工は廃校となりますが、県は鳴門市からの要請を受け、先程のような思いも受け入れたんだということも歴史のなかに書き残してほしいと思います。鳴門第一高校は、総合学科の高校として今後もずっと残ってほしいと願っています。旧撫養高校の卒業生として、県の教育委員会の方にお願ひします。

委員

このような思いを大切に、新しい学校に活かしていただきたいと思います。

委員

具体的な案を出していただいて、前回より明確な形でかなり分かってきました。小・中では、今地域とどう連携し、どう密着していくのかが大きな課題となっています。高校は通学範囲が広いので少し薄いと感じていますが、この計画では地域という言葉がずいぶん出てきますので、是非大事にしてほしいと思います。新しくできるのですから、大きな目玉として徹底的に地域と密着したモデルケースとなる高校にしていきたいと思えます。

もう一点、体育科は新しくできる高校の目玉になるだろうし、注目度も高いと思えますので、万全な体制をつくって宣伝していかなければならないと思えます。今までなかっただけに不安感も非常に大きいと思えます。やはり高校の体育科だけで職はあるのか不安がありますので、高校で学んだことを進路に活かすとなれば大学進学を考えながら体育科で頑張る子が多く集まってくると思えます。大学で続けて学ぶことによって将来が見えてくるのではと思えますので、進学体制の中に、もう少し安心できる何かを打ち出していかなければならないと思えます。

また、体育科に入学したけれど途中で挫折した子どもが、他の道に進める方法も保障していかないと、体育科はやめておこうと思う子どもが出てくると思えます。それを保障す

る道をできる限り見つけてやり、夢を持ち安心して入学して来られる体育科をこれから詰めて考えていきたいと思います。

他の委員の言葉にもありましたが、大事な2つの高校が1つになるのですから、両校出身者が納得できるようなすばらしい学校にしていきたいです。そのためには、お金はある程度必要だと思いますので、その点もよろしくお願ひしたいと思います。

委員

すぐには答えられないとは思いますが、委員全員の希望とを考えていただき、どうかしっかり受け止めていただけたらと思います。それから、進路と挫折の問題についても配慮していただけたらと思います。

いろいろご意見いただきましたが、総合選択制を取り入れるということを前提で、皆さんお話しただいておりました。確認しておきたいのですが、取り入れるということによってよろしいでしょうか。

本日は、総合学科と体育科の教育内容などについて貴重なご意見をたくさんいただきましたが、次回の地域協議会までに、事務局の方で、宿題等を含め取りまとめいただきますようお願いいたします。

県教育委員会

再編のスケジュールについてですが、今、県下の7地域で地域協議会を開き、それぞれの地域で再編の方向性をご協議いただいております。各地域協議会により若干進み具合に差がありますので、最終報告を提出していただきましたら、それを受けて、県教育委員会で再編計画案を作成したいと考えております。

何年から実際に再編が進められるのかというご質問をいただきましたが、何年からと明確には申し上げにくいところがあります。当初にご説明をいたしました、再編方針では、7地域すべての再編を最終平成30年度には終了するとなっておりますが、条件が整ったところから順次進めていくこととしています。地域協議会の議論の中で、方向が決まったら早くしてほしいとか、今のままでできるだけ後ろ倒しでゆっくりしてほしいなど、スケジュールについてもご要望がございましたら、おっしゃっていただけたらと思います。

委員

国の制度がどんどん変わっていく中で、例えば、道州制の導入ともなれば難しい問題も生じると思いますので、それぞれ協議会でよく検討すべきとは思いますが、できるだけ早い段階で進めるのがよいと思います。話し合いをして10年先ではちょっと長いような気がします。

委員

他の委員も、今の委員の思いとは相通じるものがあると思います。

以上で本日の協議を終了したいと思います。